長岡京歴史散歩

中 ~今も昔も子どもに人気~ 世の独楽

が豊富なことに由来する地名と考えられ、 点が目立ちました。 年に開田四丁目でおこなった開田遺跡の発掘調査 で出土しました。 鮮やかな朱色と墨で彩色された独楽は、 溝などが見つかっており 鎌倉時代と戦国時代の建物や井 当地の旧小字澤井は、 湧き水

えば、

えば、観応2(1351)年に制作された西太伝承されていないと思われるものもあります。

年に制作された西本願

巻5に描かれ

中世の独楽は各地で出土していますが

中には

寺所蔵

の重要文化財

た独楽は、

おり水に恵まれた集落であったと思われます。 凹形に浅く削った部分と側面には轆轤 で回転軸の先は切断されていましたが、 しました。 独楽は、常に水がしみ出す沼沢地の一 直径5・ 2 cm 残存高3 画。 逆円錐 がら出 上面の

えてしまいますが、

出ていません。

楽は軸を差し込んで指でひねる型式を除くと胴内

いたものが主流です。

図

この独楽は紐を掛けるための軸が上に突き

一見どのようにしてまわすの

か考

実は各地で出土する中世

内面には鮮やかな朱色が施され

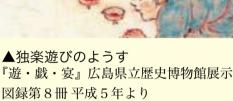
ています

がなく最上の赤色顔料とされる水銀朱を使用して 樹種はヤブツバキの心材であることがわか ました。 朱色は、 変色すること

おり、

っています。

も子どもたちに人気のがん具として伝えられてい で現代によみがえりました。独楽遊びは、 欠損した軸を復元すること 今も昔



▲独楽遊びのようす



▲開田遺跡の独楽



復元独楽と現代の独楽